

米国におけるアーカイブズ記述規則：AACR2 との関係を中心に

坂口 貴弘（国文学研究資料館アーカイブズ研究系）

2009-10-17 於：大阪市立浪速人権文化センター

表 1 DACS と AACR2 の構成の比較

DACS	AACR2
まえがき 謝辞	序文 委員会
原則の声明 アーカイブズ記述の概要	一般的序論
第I部 アーカイブズ資料の記述	第I部 記述
序論	序論
1. 記述レベル	1. 記述総則
2. 識別に関する要素	2. 図書、パンフレットおよび印刷した一枚もの
3. 内容と構造に関する要素	3. 地図資料
4. アクセスと利用条件に関する要素	4. 手稿（手稿集を含む）
5. 収集と評価選別に関する要素	5. 楽譜
6. 関連資料に関する要素	6. 録音物
7. 注記に関する要素	7. 映画およびビデオ録画
8. 記述の制御に関する要素	8. 静止画像資料
	9. 機械可読データファイル
	10. 3次元工芸品・実物
	11. マイクロ資料
	12. 逐次刊行物
	13. 分出
第II部 作成者の記述	第II部 標目、統一タイトルおよび参照
序論	序論
9. 作成者の同定	21. アクセス・ポイントの選定
10. 組織歴・履歴	
11. オースリティ・レコード	
第III部 名称の形	
序論	
12. 個人・家の名称の形	22. 個人標目
13. 地名の形	23. 地名
14. 団体名の形	24. 団体に対する標目
	25. 統一タイトル
	26. 参照
付録	付録
	A. 大文字使用法
	B. 略語
	C. 数詞
	D. 用語解説
A. 用語解説	
B. 関連のある標準類	
C. 要素の対応関係	
D. EADとMARC21を用いた事例	

※算用数字は章の番号。

表2 DACS と AACR2 の記述要素の比較

DACS「第I部 アーカイブズ資料の記述」	AACR2「第1章 記述総則」
序論	1.0 通則 1.0A. 情報源 1.0B. 記述の構成 1.0C. 区切り記号法 1.0D. 記述の精粗のレベル 1.0E. 記述の言語と文字 1.0F. 誤表示の類 1.0G. アクセントとその他の区別的発音符 1.0H. 複数の主情報源がある記述対象
2.3 タイトル	1.1 タイトルと責任表示エリア 1.1A. 予備規則 1.1B. 本タイトル 1.1C. 一般資料表示 1.1D. 並列タイトル 1.1E. タイトル関連情報 1.1F. 責任表示 1.1G. 総合タイトルのない記述対象
	1.2 版エリア 1.2A. 予備規則 1.2B. 版表示 1.2C. 版に関連する責任表示 1.2D. 副次的版表示 1.2E. 副次的版表示に関連する責任表示
	1.3 資料(または刊行形式)特性細目エリア
2.4 日付	1.4 出版、頒布などのエリア 1.4A. 予備規則 1.4B. 通則 1.4C. 出版地、頒布地など 1.4D. 出版者名、頒布者名など 1.4E. 出版者、頒布者などの役割表示 1.4F. 出版年、頒布年など 1.4G. 製作地、製作者名、製作年
2.5 数量	1.5 形態的記述エリア 1.5A. 予備規則 1.5B. 資料の数量(特定資料表示を含む) 1.5C. その他の形態的細目 1.5D. 大きさ 1.5E. 付属資料
	1.6 シリーズエリア 1.6A. 予備規則 1.6B. シリーズの本タイトル 1.6C. シリーズの並列タイトル 1.6D. シリーズのタイトル関連情報 1.6E. シリーズに関連する責任表示 1.6F. シリーズのISSN 1.6G. シリーズ番号 1.6H. サブシリーズ 1.6J. 2以上のシリーズ表示
7. 注記に関する要素	1.7 注記エリア 1.7A. 予備規則 1.7B. 注記
	1.8 標準番号と入手条件エリア 1.8A. 予備規則 1.8B. 標準番号 1.8C. キータイトル 1.8D. 入手条件 1.8E. 説明語句 1.9 補遺資料 1.10 複数の種類の資料を組み合わせた資料 1.11 復刻、写真複製、およびその他の複製

表3 ISAD(G)と DACS の記述要素の比較

ISAD(G)第2版「第3章 記述項目」	DACS「第1部 アーカイブズ資料の記述」
3.1.4 記述レベル	1. 記述レベル
3.1.1 レファレンス・コード	2.1 レファレンス・コード
	2.2 所蔵機関の名称・場所
3.1.2 タイトル	2.3 タイトル
3.1.3 日付	2.4 日付
3.1.5 記述単位の数量・メディア	2.5 数量
3.2.1 作成者名	2.6 作成者名
3.2.2 組織歴・履歴	2.7 組織歴・履歴
3.3.1 範囲と内容	3.1 範囲と内容
3.3.4 編成方法	3.2 編成方法
3.4.1 アクセス条件	4.1 アクセス条件
3.4.4 物的特徴・技術的要件 (3.4.4 物的特徴・技術的要件)	4.2 物理的アクセス
	4.3 技術的アクセス
3.4.2 複製条件	4.4 複製・利用条件
3.4.3 言語・文字	4.5 言語・文字
3.4.5 検索手段	4.6 検索手段
3.2.3 伝来	5.1 保管歴
3.2.4 直接の入手先・移管元	5.2 直接の入手先
3.3.2 評価選別・廃棄・保存期間	5.3 評価選別・廃棄・保存期間
3.3.3 追加受入	5.4 追加受入
3.5.1 原本の有無と所在	6.1 原本の有無と所在
3.5.2 複製の所在	6.2 複製の有無と所在
3.5.3 関連する記述単位	6.3 関連資料
3.5.4 出版情報	6.4 出版
3.6.1 注記	7. 注記に関する要素
3.7.1 記述に関する注記	8. 記述の制御に関する要素
3.7.2 記述規則	
3.7.3 記述作成日	

※ISAD(G)第2版の記述項目名は、初版の日本語訳である以下の文献を参照しつつ一部修正を施した。“国際標準：記録史料記述の一般原則 ISAD(G)”. 記録史料記述の国際標準. アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳. 北海道大学図書刊行会, 2001, p. 21-54.

注（番号は PowerPoint スライドの[]内の番号と対応）

1. Society of American Archivists. Describing archives: a content standard. Society of American Archivists, 2004, 269p.
2. American Library Association; Gorman, Michael; Winkler, Paul W. Anglo-American cataloguing rules. 2nd ed., American Library Association, 1978, 620p.
3. 引用部分は以下の日本語版によった。丸山昭二郎ほか訳. 英米目録規則. 第2版日本語版, 日本図書館協会, 1982, 696p.
4. “史料”. 文書館用語集. 文書館用語集研究会編. 大阪大学出版会, 1997, p. 65.
5. Hensen, S.L. The first shall be first: APPM and its impact on American archival description. Archivaria. 1993, no. 35, p. 64-70.

6. Hensen, Steven. Archives, personal papers and manuscripts: a cataloging manual for archival repositories, historical societies and manuscript libraries. Library of Congress, 1983, 51p.
7. 最新版は第2版。International Council on Archives. General international standard archival description. Committee on Descriptive Standards. 2nd ed., International Council on Archives, 2000, 91p.
8. 初版は邦訳されている。記録史料記述の国際標準. アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳. 北海道大学図書刊行会, 2001, p. 164.
9. SAA Standards Committee. "Response summary report". Society of American Archivists. http://www.archivists.org/saagroups/standards/docs/SAA%20Survey%20Gizmo%20Report_%20Response%20Summary%20Report.pdf, (accessed 2009-10-12).
10. Bureau of Canadian Archivists, Planning Committee on Descriptive Standards. Rules for archival description. Bureau of Canadian Archivists, 1990-.
11. Kiesling, Kris. "Why two standards?: RAD2 and DACS". Wien, 2004-08-23/29, International Council on Archives. 2004, http://www.wien2004.ica.org/imagesUpload/pres_140_KIESLING_Z-DRY%2001.pdf, (accessed 2009-10-12).
12. Bastian, Jeannette; Yakel, Elizabeth. 'Are we there yet?' professionalism and the development of an archival core curriculum in the United States. Journal of Education for Library and Information Science. 2005, vol. 46, no. 2, p. 100-101.
13. Yakel, Elizabeth; Bastian, Jeannette Allis. Part 4 A*census: report on graduate archival education. American Archivist. 2006, vol. 69, no. 2, p. 350-352.
14. 中野美智子. 近世史料目録情報のデータベース化をめざして. 大学図書館研究. 1995, no. 46, p. 38-39.
15. "第3章 書写資料". 日本目録規則. 日本図書館協会目録委員会編. 1987年版改訂3版, 日本図書館協会, 2006, p. 96.
16. 永田治樹; 増田元; 竹内比呂也. 文書目録情報のデータベース化の問題点: 文書 OPAC作成と MARC(AMC)の事例から. 大学図書館研究. 1988, no. 33, p. 50.
17. 以下も参照されたい。坂口貴弘. 北米におけるアーカイブズ記述規則の特性: 図書館界の目録規則との比較をもとに. 国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇. 2009, no. 5, p. 119-136.